

四島のかけ橋

第 62 号
平成30年1月1日

(月曜日)

発行所
北方領土返還要求運動
神奈川県民会議
〒231-8588 横浜市中区日本大通1
TEL 045-210-1111 内線3618
発行人 綾井 祐一



北方領土返還祈念 シンボル像「四島のかけ橋」

第三十三回県民大会を開催

会場は横浜情報文化センター

平成二十九年十一月二十日(月)、横浜市中区の「横浜情報文化センター」情文ホールにおいて、第三十三回北方領土返還要求運動神奈川県民大会を開催しました。

会員をはじめ百五十四名 知事及び独立行政法人北方が参加した今大会では、主 領土問題対策協会の荒川研 催者の佐藤会長の挨拶の 理事長(木村事務局長代読 後、来賓の首藤神奈川県副 から、当県民会議の活動へ

の敬意と今後の運動への激励の言葉を頂きました。

続いて、石橋功氏(神奈川県北方領土問題教育者会議・県立岸根高等学校)が、平成二十九年八月十八日から二十一日に行われた、北方四島交流訪問事業の参加報告を行いました。色丹島を訪問した際の、日本人墓地への墓参や街の様子、在住しているロシア人との交流で感じたことなどについて、写真を交えて報告して

最後に、二宮理事(神奈川県農業協同組合中央会)から、神奈川県民の総意を集結し、ねばり強く運動を推進するという大会宣言が提案され、満場一致で採択されました。

二月七日(水)は「北方領土の日」

一八五五年の二月七日(旧暦では安政元年十二月二十一日)、伊豆の下田において日露通好条約が調印されました。この条約で日露両国の国境が平和裏に定められ、北方四島が日本の領土として初めて国際的に明確にされたのです。そうした経緯を踏まえて、北方領土問題に対する国民の関心と理解をさらに深め、全国的な北方領土返還運動の一層の推進を図るため、昭和五十六年一月六日の閣議了解(旧暦では安政元年十二月二十一日)として定められました。県民会議では、相鉄線、横浜市営地下鉄グリーンライン及び神奈中バスでの「車内映像広告」のほか、電光ビジョン、新聞、懸垂幕などによる広報を予定しています。

また、本年も二月七日(水)に、東京都の国立劇場で、「北方領土返還要求全国大会」が開催されます。

「どうなる北方領土交渉」

講演要旨

NHK解説委員

山内聡彦氏

二〇一六年十二月、ロシアのプーチン大統領が十一年ぶりに日本を訪問しました。それに先立ち、ソチ、ウラジオストク、ペルーでそれぞれ首脳会談が行われ、両首脳は全体会合のほかに一対一で一時間ほど話をすると異例の経過をたどった末の訪日でした。一番の成果は、日露が北方四島で経済の共同事業を始めること、その法的な枠組みについて交渉をしようということでした。安倍首相はこれは平和条約の締結に向けた重要な一歩であるという認識を示しました。このほか北方領土への旧島民の墓参を拡大し、総額三千万円に上る経済協力をする

ことで合意しました。しかし、肝心の領土問題では進展がなく、それを盛り込んだ共同声明も出されませんでした。

訪日の成果を肯定的に見ている法政大学の下斗米先生は「まずまずのスタートだった。急がば回れだ。そんなに簡単に結論は出ない。訪日はホップ・ステップ・ジャンプのホップの段階だった」と話しています。一方、新潟県立大学の袴田先生は「全体としてかなり厳しい結果だった。領土問題で成果がなかった。そして、共同経済活動という新たなハードルが領土問題の解決に加わった」という厳しい見方をしています。この訪

日で分かったのは、領土問題が今すぐ解決するのは難しいということでした。これはプーチン大統領が強く主張していることですが、まず日露間の信頼醸成を図ることが重要で、領土交渉は長期戦になるということです。一方で、私は現実的にはタイムリミットがあると考えます。この両首脳の組み合わせは、恐らく二〇二一年までがリミットです。去年、訪日も含めて四回、首脳会談が行われましたが、それから一年たつて少し勢いが落ちています。二〇一八年以降、この首脳交渉の勢いをいかにして維持していくかが非常に重要で

領土交渉の進展について、これまで三回大きなチャンスがありました。しかし、いずれも失敗しています。一回目は、ソビエト連邦が崩壊した直後の一九九二年で、ロシアは国内の政治、経済、社会が混乱する中、バブル絶頂期の日本に支援してもらったため、コーズイレフ外相が訪日して「二島返還、二島継続協議」という秘密提案をしました。これは歯舞・色丹を返還して、残る国後・択捉について継続協議することです。しかし、日本はこの提案を拒否して、ソビエト連邦の崩壊という百年に一度の大きなチャンスを逃してしまいました。

灯台

平成二十八年十二月、ロシアのプーチン大統領が来日し四島返還について首脳会談が行われ、共同経済活動を行う特別な制度に関する協議の開始に合意しました。

その後、協議の経緯として平成二十九年九月二十三日から二十四日にかけて、従来の船舶による渡航から、はじめて航空機を利用した元島民による国後島及び択捉島への訪問が実現し、慰霊を行いました。また、北方四島における共同経済活動に関する具体的な進展として、早期に取り組む五件のプロジェクト(1)海産物の共同養殖(2)温室野菜栽培(3)島の特性に応じた観光ツアーの開発(4)風力発電の導入(5)ゴミの減量対策」の候補を特定しました。さらに今後、双方の立場を害さない法的枠組みを検討し、できるものから実施していくことで一致しました。

二回目は一九九七年、東シベリアのクラスノヤルスクで、エリツィン大統領と橋本首相がネクタイなしの首脳会談を行いました。エリツィン大統領が驚くような提案をし、両首脳は「二〇〇〇年までに平和条約を締結するよう全力をあげろ」ということで合意しました。私は当時、東京のNHKでこの映像を見て、これで北方領土が返ってくるのではないかと受けとめました。そのあと、翌年、静岡県県の川奈で首脳会談が行われ、日本が新たな提案をしました。それは、択捉島の北側にあるウルップ島と択捉島の間に国境線を引き、四島に対する日本の主権をロシアが認めれば、返還の時期については柔軟に対応するという提案でした。

後、ロシアは拒否しました。三回の大きなチャンスは逃しましたが、今四回目のチャンスが来ています。今回の特徴は、首脳同士の頻繁な会談です。安倍首相とプーチン大統領はこれまで二十回も会談を行って、領土交渉史上、これほど首脳が集中的に会談した前例はありません。もう一つの特徴は、日本側が動いたということです。日本は伝統的に、領土問題の解決を優先してきましたが、今回は領土はどうなるかわからないが、まず経済協力をし、関係を改善しようということを行ったわけです。また、「新しいアプローチ」という表現を使い、領土問題

の解決はいったん脇に置いて、将来的に北方領土で日露の国民がどのように共存できるのかを話そうと提案しました。日本側の思惑は、まず関係全体を発展させて領土問題を進展させ、同時に、ロシアとの関係を強化して中国の動きを牽制しようというところにあります。プーチン大統領の訪日後のこの一年間の具体的な成果は、共同経済活動を五つの優先プロジェクト、つまり海産物の養殖、温室野菜の栽培、観光ツアー、水力発電、ごみの処分などに絞りました。これはロシアの法律で特区を運営しようというもので、日露の協議にプレーキをかけるような動きも起きています。今回の一連の動きで、領土問題に安全保障問題という新たなハードルが加わりました。ロシアが懸念しているのは日米安保条約の関連で、仮に北方領土が日本に引き渡された場合、そこにアメリカ軍が駐留するのはないかということです。このほか、ロシアは、アメリカが北朝鮮問題を口実に北東アジアで軍事プレゼンスを強めようとしていると警戒しています。この安全保障問題は今後、非常に大きな問題になると思います。次に、これからどうなるかということについてです。来年三月のロシアの大統領選挙でプーチンが立候補し

だが、日本との間にはまだ二〇二四年まで続投する可能性があります。五月に大統領就任式が行われ、五月下旬には安倍首相がロシアを訪問します。これが当面の大きな山場になります。また安倍首相が自民党総裁の任期をもう一期継続するかどうかは、今後の北方領土交渉に非常に大きな影響を与えると思います。私はプーチンが来年の大統領選挙で四選を果たした後、本格的に領土交渉に取り組んでくるのではないかと期待しています。共同経済活動について実現して、いつ本格的な領土交渉に入れるのか、今後の焦点で、日本側とすれば来年以降を見据えた戦略をつくっていかなくてはならないと思います。今後、領土問題にはどんな問題点があるのでしょうか。まず、平和条約の締結自体容易ではありません。平和条約がなくても日露関係は発展してきていると考えている人がロシアでは大勢です。しかし、プーチン大統領は一貫して平和条約を結ぶ必要があるということを行っているので、それは大きな意味があると私は思います。また一方で、ロシアと中国との間で四十年間にわたる東部国境四〇〇〇キロの領土問題が解決したのは、中露間に高いレベルの信頼関係があったから

の延長線上にある国後・択捉の軸は非常に重要で返還は困難だが、その脇にある歯舞・色丹は重要でないの、軍事的に見て返還される可能性はあると話していました。これは彼の個人的な意見ですが、今後の交渉の中ではこうした北方領土をめぐる軍事的な問題が非常に難しい問題になるだろうと思います。プーチン大統領は返還を決定できるのでしょうか。今ロシアではナシヨナリズムや愛国主義が高まっています。ソビエト連邦崩壊の後、ロシアは勢力圏を失ってしまいました。そうした中でクリミア併合でウクライナから領土を取り戻したというところで、ロシアでは主権問題では絶対譲歩しないという機運が高まっています。クリミア併合でプーチン大統領の支持率は八十七パーセントにはね上がりま

した。大統領選挙の前に、領土問題で日本にとっても譲歩できるような状態ではないのです。ロシアの専門家は、領土問題で最大の問題はロシアの世論であると言っています。二〇一六年五月の世論調査では、北方領土を日本に引き渡すことについて、八割近くの人が反対しているという現実があります。ロシアは戦争に勝ったのになぜ負けた日本に領土を返す必要があるのかというのが一般の国民の大方の考え方です。最後に強調したいのは、タイミングが重要であるということです。来々、ロシアの大統領選挙が終わった後、安倍首相とプーチン大統領でこのプロセスが再び活発化することを期待したいと思っています。かつて外務省審議官やロシア大使を務めた故・丹波実氏は、日露の領土交渉に長い間か



五、「現代ロシアを見る眼ープーチンの10年の衝撃」(NHK出版 共著二〇一〇)、「ドキュメントプーチンのロシア」(NHK出版二〇一三) 〇東京外国語大学ロシア語学科卒業



県民大会の様子

土問題に安全保障問題という新たなハードルが加わりました。ロシアが懸念しているのは日米安保条約の関連で、仮に北方領土が日本に引き渡された場合、そこにアメリカ軍が駐留するのはないかということです。このほか、ロシアは、アメリカが北朝鮮問題を口実に北東アジアで軍事プレゼンスを強めようとしていると警戒しています。この安全保障問題は今後、非常に大きな問題になると思います。次に、これからどうなるかということについてです。来年三月のロシアの大統領選挙でプーチンが立候補し

だが、日本との間にはまだ二〇二四年まで続投する可能性があります。五月に大統領就任式が行われ、五月下旬には安倍首相がロシアを訪問します。これが当面の大きな山場になります。また安倍首相が自民党総裁の任期をもう一期継続するかどうかは、今後の北方領土交渉に非常に大きな影響を与えると思います。私はプーチンが来年の大統領選挙で四選を果たした後、本格的に領土交渉に取り組んでくるのではないかと期待しています。共同経済活動について実現して、いつ本格的な領土交渉に入れるのか、今後の焦点で、日本側とすれば来年以降を見据えた戦略をつくっていかなくてはならないと思います。今後、領土問題にはどんな問題点があるのでしょうか。まず、平和条約の締結自体容易ではありません。平和条約がなくても日露関係は発展してきていると考えている人がロシアでは大勢です。しかし、プーチン大統領は一貫して平和条約を結ぶ必要があるということを行っているので、それは大きな意味があると私は思います。また一方で、ロシアと中国との間で四十年間にわたる東部国境四〇〇〇キロの領土問題が解決したのは、中露間に高いレベルの信頼関係があったから

の延長線上にある国後・択捉の軸は非常に重要で返還は困難だが、その脇にある歯舞・色丹は重要でないの、軍事的に見て返還される可能性はあると話していました。これは彼の個人的な意見ですが、今後の交渉の中ではこうした北方領土をめぐる軍事的な問題が非常に難しい問題になるだろうと思います。プーチン大統領は返還を決定できるのでしょうか。今ロシアではナシヨナリズムや愛国主義が高まっています。ソビエト連邦崩壊の後、ロシアは勢力圏を失ってしまいました。そうした中でクリミア併合でウクライナから領土を取り戻したというところで、ロシアでは主権問題では絶対譲歩しないという機運が高まっています。クリミア併合でプーチン大統領の支持率は八十七パーセントにはね上がりま

した。大統領選挙の前に、領土問題で日本にとっても譲歩できるような状態ではないのです。ロシアの専門家は、領土問題で最大の問題はロシアの世論であると言っています。二〇一六年五月の世論調査では、北方領土を日本に引き渡すことについて、八割近くの人が反対しているという現実があります。ロシアは戦争に勝ったのになぜ負けた日本に領土を返す必要があるのかというのが一般の国民の大方の考え方です。最後に強調したいのは、タイミングが重要であるということです。来々、ロシアの大統領選挙が終わった後、安倍首相とプーチン大統領でこのプロセスが再び活発化することを期待したいと思っています。かつて外務省審議官やロシア大使を務めた故・丹波実氏は、日露の領土交渉に長い間か

編集後記

◇教育者会議は昨年北方領土青少年現地視察研修を行い、県内の中学生と引率者あわせて二十名が根室市・羅臼町などを訪問しました。元島民の講話を聞き、翌日は羅臼港から十六キロメートル先の国後島に向けて、中間地点の八キロメートルまで船で視察しました。この視察が神奈川新聞の記事になり、参加した高校生二年生は「島にいるロシア人と共生できないか」と思っていたが、(元島民の)話を聞いて一緒に住むのは難しいかもしれないと考えが変わった」と感想を述べています。この視察事業には、中学生と引率した先生を含めて、これまで五十名以上が参加しています。返還には今後長い時間がかかると予想されます。若い世代の理解と運動の継続を望んでやみません。(綾井)

声届け 開けよう扉 四島返還

平成二十九年度 北方領土に関する標語 〈最優秀賞〉

福島県南相馬市 佐藤隆貴さん



神奈中バス「かなチャンネル」

二月の「北方領土返還運動全国強調月間」の期間、相鉄線・横浜市営地下鉄グリーンライン・神奈中バスの一部の車両で、北方領土に関する啓発映像を放映します。一回三十秒のCMが、相鉄線は全線で五十両の車両、横浜市営地下鉄グリーンラインは六十八両の車両、神奈中バスは横浜地区、厚木・綾瀬地区、相模原地区、藤沢・茅ヶ崎地区の三百四十台の車両で流れる予定です。ご乗車の際には、車内映像広告にご注目ください。

◇教育者会議は昨年北方領土青少年現地視察研修を行い、県内の中学生と引率者あわせて二十名が根室市・羅臼町などを訪問しました。元島民の講話を聞き、翌日は羅臼港から十六キロメートル先の国後島に向けて、中間地点の八キロメートルまで船で視察しました。この視察が神奈川新聞の記事になり、参加した高校生二年生は「島にいるロシア人と共生できないか」と思っていたが、(元島民の)話を聞いて一緒に住むのは難しいかもしれないと考えが変わった」と感想を述べています。この視察事業には、中学生と引率した先生を含めて、これまで五十名以上が参加しています。返還には今後長い時間がかかると予想されます。若い世代の理解と運動の継続を望んでやみません。(綾井)